

- [Home](#)
- [Test PDF Inline](#)
- [Test PDF Attachment \(with A4 Landscape DisableSmartShrinkingViewPortSize1024\)](#)
- [Test Image](#)
- [Test Image Png](#)
- [Test URL](#)
- [Test External URL](#)
- [Test View](#)
- [Test View Image](#)
- [Route Test](#)
- [Test ViewAsPdf with a model](#)
- [Test ViewAsImage with a model](#)
- [Test PartialViewAsPdf with a model](#)
- [Test PartialViewAsImage with a model](#)
- [Error Test](#)
- [Binary Test](#)
- [Ajax Test](#)
- [Ajax Image Test](#)
- [External CSS Test](#)
- [External CSS Test Image](#)

Some text with non ascii char àéù

Accept = */*

Accept-Encoding = gzip, br, zstd, deflate

Host = doc.dealercorp.com

Max-Forwards = 10

User-Agent = Mozilla/5.0 AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko; compatible; ClaudeBot/1.0; +claudebot@anthropic.com)

X-ARR-LOG-ID = 37445cd-7c41-43c8-a751-ac5d8b247cf0

CLIENT-IP = 216.73.216.174:64216

DISGUISED-HOST = doc.dealercorp.com

X-SITE-DEPLOYMENT-ID = deskit-doc

WAS-DEFAULT-HOSTNAME = deskit-doc.azurewebsites.net

X-Forwarded-Proto = https

X-AppService-Proto = https

X-ARR-SSL = 2048|256|CN=Go Daddy Secure Certificate Authority - G2, OU=http://certs.godaddy.com/repository/, O="GoDaddy.com, Inc.", L=Scottsdale, S=Arizona, C=US|CN=*.dealercorp.com

X-Forwarded-TlsVersion = 1.3

X-Forwarded-For = 216.73.216.174:64216

X-Original-URL = /Home/TestView

X-WAWS-Unencoded-URL = /Home/TestView

windowWidth = 0

windowHeight = 3608

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番穢悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というもの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知った。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋びきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそのそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番穢悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というもの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知った。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋びきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそのそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原

の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思つてゐる。どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおつた兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つて無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思つてゐる。どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおつた兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つて無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思つてゐる。どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおつた兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つて無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思つてゐる。どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおつた兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つて無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐つておつたが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思つてゐる。どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおつた兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまつた。その上今までの所とは違つて無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ カタカナ ◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番擰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あったがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぱうぱうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知った。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそのそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ◆◆ 効力◆◆

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番擰悪どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢つたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぱうぱうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこというものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそのそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 ?? カタカナ ??

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤ泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰惡どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐しいとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぱうぱうと煙けむりを吹く。どうも呑むせばくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たばこのものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語元キフト 12345 12345 金角 半角 日本語 かか カカ 放射 かく

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤ泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰惡どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一手をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢あつたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぱうぱうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たゞごといふものである事はようやくこの頃知つた

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底どうい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語テキスト 12345 12345 全角 半角 日本語 かた かた

どこで生れたかとんと見当けんとうがつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤニヤ泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番擯惡どうあくな種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕つかまえて煮にて食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかつた。ただ彼の掌てのひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始みはじめであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残つてゐる。第一毛をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶やかんだ。その後ご猫にもだいぶ逢つたがこんな片輪かたわには一度も出会でくわした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そしてその穴の中から時々ぱうぱうと煙けむりを吹く。どうも咽むせぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草たゞごといふものである事はようやくこの頃知つた。

この書生の掌の裏うちでしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底どうい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋ぴきも見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

日本語ニキフト 12345 12345 金魚 半魚 日本語 金 金 金 金 金

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗むやみに眼が廻る。胸が悪くなる。到底とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋も見えぬ。肝心かんじんの母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗むやみに明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子ようすがおかしいと、のそそ這はい出して見ると非常に痛い。吾輩は藁わらの上から急に笹原の中へ棄てられたのである。